

市内バスネットワーク維持に向けた協議申し入れ対象路線の状況

1. 前回協議会以降の動き

ひかりが丘住宅線及び生駒ニュータウン線

- ・三者協議の開催(第4回 7/6、第5回 8/10)
- ・8/10 第5回の三者協議において、自分たちや地域で取り組む利用促進案を決定。
今後は、以下の①、②のグループに分かれて個別に集まり、実現に向けて話し合いを進めていく。
 - ① 地域等で運行経費負担や利用促進を目指した「サポーター制度」の導入
 - ② 利用機会の創出を目指した「バスに乗ろうポスターコンクール」の開催
全市の小中学校で冬休みにポスターを募集する方向で検討(9/14、10/12)
- ・各グループの進捗状況を確認しながら次回の三者協議にて、今後の進め方を協議、決定する予定(試行の継続や方向の転換等を協議)。

(三者協議の詳細は生駒市 HP で公開中)

富雄庄田線

- ・富雄庄田線沿線自治会と今後の進め方について協議(10/4)
- ・現状共有、利用促進のための自治会回覧の実施に向け準備中。



北田原線

- ・今後の進め方について地元と協議(8/22)
- ・現状共有、利用促進の取り組みの協力者を募集する自治会回覧実施(10/1)
- ・11 月頃に利用促進の実施に向けた話し合いの場を設定予定。

高の原高山線

- ・奈良県地域交通改善協議会において、奈良先端科学技術大学院大学から提案された代替案を基に、関係者間で調整を行った結果、学園前相楽線を高山サイエスタウンまで延伸することで協議が調い、令和5年10月から運行を開始した。運行便数は平日 13 便、土休日 9 便(高の原高山線から変更なし)。利用状況を検証した上で、今後の運行について検討していく予定。

2. 第 1 回分科会開催概要

- ・日時：令和 5 年 8 月 31 日 (木) 午後 2 時～午後 4 時
- ・場所：生駒市役所 4 階 402 会議室
- ・出席者：(委 員) 山本副市長 (会長)、室崎委員 (副会長)、森岡委員、新井委員、大西委員 (事務局) 生駒市 (米田建設部長、谷事業計画課長、浜田事業計画課課長補佐、菊池事業計画課交通対策係員、福呂事業計画課交通対策係員)、一般社団法人システム科学研究所 (加藤、柿菌)

(分科会の詳細は生駒市 HP で公開中)



3. 第 1 回分科会の議事内容（決定したことや主なご意見など）

3.1. 分科会の設置について

- ・分科会規程第 3 条に従い、会長が室崎委員（奈良女子大学生生活環境学部住環境学科准教授）を副会長に指名した。
- ・分科会は、率直な意見の交換や意思決定の中立性を損なわないために非公開とし、議事概要を後日公開する。
- ・分科会は、三者協議の意見等を協議・検討する場であるが、三者協議で意見や方針がまとまらない場合であっても、その状況を踏まえつつ分科会を開催する。
- ・次回の分科会は、三者協議の進捗を見ながら開催時期を調整する。
- ・分科会の内容については活性化協議会で報告を行う。

3.2. 市内バスネットワーク維持に向けた協議申し入れ対象路線の状況について

- ・富雄庄田線は、利用者数が依然として少なく、コロナ禍に特例で増額されていた国庫補助金の増額がなくなったこともあり、赤字額が増加傾向にある。路線再編に関するアンケート調査実施直後は、バス利用者が一時的に増えたが、すぐに元の状態に戻った。路線がなくなることに対する危機感を持つことや路線維持に向けて住民自身が動く必要があることを、市から住民に伝えていってほしい。

3.3. ひかりが丘住宅線及び生駒ニュータウン線の三者協議について

- ・公共交通の利用を促進するイベントが少ない。市全体の公共交通イベントを実施するなど、全体で赤字路線の解消を図る必要がある。
- ・8月に実施したバス運賃 100 円 DAY における、路線バスの利用状況やアンケート結果等、集計ができれば検証を行う。8月5日のどんどこまつりには、多くの方がバスを利用しており、生駒市全体への波及効果もあったと思われる。
- ・市外から参加者が集まるイベントや継続開催が可能なイベントなど、市や奈良交通と一緒にイベントを考えていく必要がある。
- ・定期利用者が家族等と一緒にバスを利用してもらうような利用促進策（例えば、休日に大人に同伴する子どもの運賃を 100 円均一とするなど）を検討してはどうか。
- ・他地域で、ふるさと納税の返礼品に期間限定の 1 日乗り放題バス乗車券がおまけで付いてくる事例がある。市外から来訪していただき、公共交通利用だけでなく、買い物や飲食により市全体の活性化につながるので、バス料金を市が一部支援するなどして、生駒市でも実施してみてもどうか。

以上